

東南アジアのタイとマレーシアとの国境付近には毎週日曜、午前9時から夕方まで双方に市がたち、住民たちが貰い物のために自由に行き来する。並ぶ商品は雑貨やお菓子などさまざまある。

国境のくらし

一、ナラティワートの3県は住民の大半がイスラム教徒だ。黒田教授によると、イスラム教は商人を通して広まつたとい、かつて商業が盛んだったこの地域にも根を下ろしたのだという。この地域は19世紀になってタイに併合されるまでは「パタニ王国」というイスラム国家だ

黒田 景子 教授(52)

KAGOSHIMA
UNIVERSITY

チカラ

法文学部



広い視野で世界を見る

信仰する宗教の違いは、文化や生活習慣の違いとなつて表れる。仏教が広まっている日本でもそういうであるように、体の正面で手をあわせて頭を下げるのが仏教式。だがイスラム教徒にはそういう習慣はない。「ベーハー」を焼く時に漂うおいしさなどにおいても、豚を食べないイスラム教徒には異臭。鼻をつまんで嫌な顔をされる」と話す。

タイ政府により、仏教文化を押しつけられてきたと感じている一部の住民の間では、再び地

なるべく現地住民からの情報
信が加速した。

域を独立させようとする声もある。この地方は2004年から爆弾テロや射殺事件が頻発。約4千人の犠牲者が出ている危険地域だ。犯人像は明確ではないが、タイ政府はイスラム過激派による犯行とみて警戒を強めており、政府と反政府勢力との対立が激化している。

「対立が表面化してきた背景のひとつに、IT技術の普及がある」。インターネットの世界でも、ホームページでタイ語な

黒田教授は、じつした動きを追
いながら、人間が線で分けられ
るような世界に住んでいるもの
ではないと実感している。

「国境線という線引きがいかに不自然かといふことが、インターネット時代になってようやくわかつてきた」

国境などござれない」一起境内
デイア」の登場だ。パタニの独立派もWebサイトを立ち上げ、今まで政府からどうぞう目にあってきたかを主張。他国のはイスラム教徒から支持を得はじめた。情報発信は、タイ政府が禁じても海外のサーバーを活用して漏洩している。